

## 研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

### 申請番号：

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

- ・研究課題名：呼吸状態の悪化で起動したRapid Response System症例の検討
- ・目的：当院では2018年5月からRapid Response System（RRS）として、Rapid Response Team（RRT）が組織され運用を開始している。初年度（2018年度）のRRT総起動件数は68件で、月平均6.1件（新入院患者あたり0.2%-0.9%）であり、十分な件数とは言えなかった。しかし、その後、RRSの意義・目的を周知するRRS講習会（医師、看護師参加必須）、呼吸数測定のみモニタリング、救急カートの使用状況や部署内で発生した心停止の状況とRRSの出勤実績の出張説明会を行い、2020年度のRRT総起動件数は270件、月平均22.5件まで上昇している。

当院RRSの要請内容の理由として最も多いのが、「SpO<sub>2</sub>低下」や「呼吸困難」など呼吸に関連した事象の相談である。しかしながら、これまでの報告においては、要請内容別に検討されているものは見当たらず、呼吸関連の事象で相談があった事例の特徴やRRTの介入内容、予後などは明らかとなっていない。このため、2018年度から2021年度までの活動実績を電子カルテなどから後方視的に振り返り、呼吸関連の事象でRRTが相談を受けた症例を抽出し、事例の特徴やRRT介入内容、予後などを明らかにするため本研究を行う。

- ・研究期間：臨床研究IRB承認日～2022/12/31
- ・研究対象：2018/5/1～2021/12/31

利用し、又は提供する試料・情報の項目

#### 1) 対象

呼吸に関連した事象の相談を受けRRTが介入した患者

#### 2) 調査内容

【患者背景】・年齢、性別、原疾患、基礎疾患、重症度（Modified early warning score）

【起動内容】・RRTコール時間、RRT要請内容、RRT要請部署、RRT要請者の職種、  
RRT要請者の医療行為

【RRT活動】・RRT活動時間、RRTが行った医療行為、RRT介入効果、移送（ICU・HCU）の有無

【アウトカム】・院内心停止発生率、院内死亡率、ICU予定外入室件数

#### 【用語の定義】

・呼吸に関連した事象：「SpO<sub>2</sub>低下」、「呼吸困難」、「努力呼吸」、「頻呼吸」、「呼吸回数の増加」、「挿管困難」、「呼吸停止」、「呼吸パターン不良」、「呼吸ケアの相談」、「気管チューブの問題」、「人工呼吸の非同調」のうち一つ以上とする。

#### 利用する者の範囲

・新山和也、大谷義孝、古田島太

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：新山 和也